

開拓者精神で若くして起業 常に将来を見据える



钣金塗装・整備・販売と、車のことならなんでもこなせる自信があるという阿部代表。設備貸与制度による完全集塵装置型塗装ブースの導入で保険会社指定工場の契約を取りやすくなった。

AUTO-BODY 阿部

18歳で社長になることを決意した若き経営者は、自分自身の職業的スキルを磨きながら、時間軸で経営戦略を練る。将来、業界にどのような変化が訪れるか。あるいはまた、自分の会社の将来をどのようにしていきたいのか。そのような考え方をすると、今やっておくべきことが見えてくる。

旺盛な独立心で二十代で創業

鹿角市毛馬内の国道282号沿いにある自動車車体整備工場「AUTO-BODY阿部」は、創業が平成10年、創業社長の阿部隆さんは40歳という若い企業だ。

独立心の旺盛な阿部さんは、人に雇われるよりは自分で社長になると18歳の頃には起業を決意し、25歳でそれを実現した。

独立するまでの間は、「場所を変えても職は変えるな」と自分に言い聞かせて、4社ほどで会社勤めをしたが一貫して自動車関連の仕事に就いた。この“修業期間”で自動車の钣金塗装から整備、販売まで幅広く経験できたことが、独立後の事業展開の大きな原動力になった。

将来を見据えた経営戦略を練る

自動車整備工場は、同業者も多く限られたパイの奪い合いになりがちだが、阿部さんは、今を辛抱すれば近い将来には目鼻がつくと考えている。

「今の整備工場経営者の多くは終戦直後生まれのいわゆる“団塊の世代”で、ほとんど60代です。後継者がいないところも多く、また、団塊世代以降は景気のいい時代でもあったので、今50代の整備工場経営者というのはほとんどいません。つまり、業界が何年後かに世代交代の時期を迎えると、私らの出番になってくるのです」(阿部代表)

必ずやってくるその時期のために、今のうちに力を蓄えておこうというのが阿部代表の考えだ。そのために、秋田県から経営革新計画の承認を受け、あきた企業活性化センターの設備貸与制度を活用して、自動車塗装ブースと門型二柱リフトを導入した。最新の設備の導入と阿部代表自身の持つ高い技術力が評価され、保険会社の指定工場の契約も複数取りつけている。

後進を育成する手間も惜しまない

自動車整備というのは労働集約産業である。腕の立つ従業員の確保あるいは育成が経営の成否を握る。それについても阿部代表には一家

オート ボデー AUTO-BODY 阿部

〒018-5334

秋田県鹿角市十和田毛馬内字下夕道19-10

Tel.0186-35-2120

Fax.0186-35-5612

E-mail autobody@crocus.ocn.ne.jp

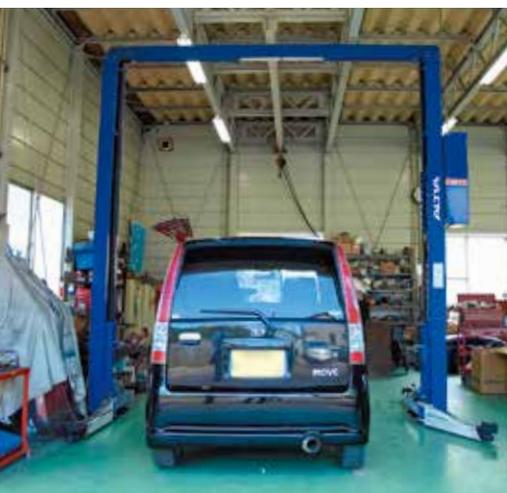


社屋全景(写真上)
自身や従業員の健康安全と作業効率向上を図って、塗装用具の管理も入念に。(写真下)

言ある。

「連合艦隊司令長官・山本五十六に『やってみせ、いって聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ』という言葉があります。まさにその通りだと思い、私もそれを実践し、仕事を任せられる人材を育てたいし、将来は独立できるくらいに力をつけさせてやりたいと思っています」

常に近い将来を見据えた経営戦略を練るのが、この会社のスタイルと言えるだろう。



設備貸与制度を利用して導入した門型二柱リフト